

加茂市中小企業景況調査報告(平成24年4月～6月期)

全業種のDI平均値は、前期(1～3月期)の 38.0ポイントから33.8ポイント大幅に改善され、 4.2ポイントとなった。全業種、全項目において改善する結果となった。業種別では建設業、製造業、卸売業では大幅な回復がみられたが、小売業、サービス業は若干の回復にとどまり依然厳しい状態が続いている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		9 (47)	28 (31)	13 (0)	2 (6)	11 (18)	0 (27)	33 (48)	33 (45)	5 (33)	9 (29)
採算		9 (77)	50 (67)	0 (5)	17 (11)	11 (30)	11 (20)	46 (52)	44 (52)	15 (46)	13 (46)
資金繰り		9 (30)	27 (46)	0 (18)	19 (6)	0 (36)	0 (18)	42 (45)	39 (41)	20 (21)	14 (17)
業況		0 (54)	36 (61)	5 (9)	12 (24)	22 (36)	12 (20)	33 (45)	35 (36)	15 (46)	21 (39)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞	
	2位	請負単価の低下		製品(加工)単価の低下		販売単価の低下		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	民間需要の停滞		原材料価格の上昇		店舗・倉庫の狭隘・老朽化		購買力の他地域への流出		材料等仕入単価の上昇	
業種別 コメント		<p>今期は公共工事を始め季節的に仕事が始める時期であり、全項目でDI値が大きく回復した。</p> <p>しかし公共工事の出足は鈍く全体的に工事の発注数は少ない状況により、厳しい競争が続いている影響で、今期の回復具合に比べ来期の見通しに改善傾向は見られない。</p> <p>まだまだ先行きが不透明な状態が続きそうである。</p>		<p>震災から1年以上経ち業況は全体的に回復傾向にある。</p> <p>原材料の高騰や海外との競争による受注先からのコストダウン要求など業界を取り巻く環境は一段と厳しい。</p> <p>来期への見通しではまだ先行きが見えないことから若干の不安がみられる。</p> <p>難局を乗り切るには更なる改善活動、技術革新などが必要である。</p>		<p>建設業、製造業の回復に伴い関連企業のDI値が回復し、業界全体の景況感を底上げしている。</p> <p>来期の見通しも明るく全項目でDI値の回復が見られた。</p> <p>厳しい競争を生き残るためにはただモノを仕入れて販売するだけではなく、業界動向を分析し、顧客へ対して提案型の営業を心掛けるなどの経営努力が必要である。</p>		<p>GW前半は好天に恵まれたが、後半は荒天により一足が鈍り、売上上昇の期待も今ひとつ消費購買意欲に結びつかなかったことから、DI値は前期に比べ若干の回復傾向にとどまった。</p> <p>来期見通しでは、中元商戦に突入するが購買意欲を引き出すきっかけが見出せず、このままの状態が続くと見ている。</p> <p>価格競争ではなく各個店の特徴を生かし、小回りのきくサービス提供により個店のファン作りで集客力を上げることが急務である。</p>		<p>前半は、燃料価格の上昇傾向や暴風なども手伝って、消費者の利用頻度も少なかったが、新年度を迎え歓迎会などの季節的要因も加わり、各項目とも若干の回復傾向を見せている。</p> <p>来期見通しでも、気温や天候により利用頻度に影響が出ることから、このままの状態が続くと見ている。</p>	



とくに好調
(50 DI)

好調
(25 DI<50)

まあまあ
(0 DI<25)

不振
(25 DI<0)

きわめて不振
(DI< 25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

()は前回調査時のD・I値